

レポートの書き方講習会

2015/7/9

芸術文化学部 奥 敬一

レポートとその仲間達

- ◆ 報告 . . . とにかく事実を正確に淡々と記載する
(プラス若干の自分の解釈)
- ◆ 小論文、論考 . . . 先行研究と事実をもとに
自分の考えを論理的に主張する
- ◆ 卒業論文、修士論文
- ◆ 学術論文 . . . 世の中に新しい
知見を提供する
- ◆ 書籍

客観性

自分の思い、自分の経験だけで書かない
事実を記録したデータや、
すでに認められている主張から出発する

論理性

「当たり前」の事柄を積み重ねていく
なぜそうなるのか、誰でも納得できるような理由

レポートの構造と作法

基本的な構成

- ◆ タイトル
- ◆ 取り上げるテーマ
- ◆ 明らかにしようとする問い
- ◆ 問いに対する仮の答え（仮説）
- ◆ 問いに答えるための方法
- ◆ すでにある研究、知見からの証拠
- ◆ 自分で集めたデータからの証拠
- ◆ 問いに対する答え
- ◆ 結論
- ◆ 引用・参考文献

目次（見出し）の一例

第1章 研究の背景と目的

- (1) 研究の背景
- (2) 既存の研究
- (3) 研究の目的

第2章 方法

- (1) 対象地の概要
- (2) 調査方法
- (3) 分析方法

第3章 結果

- (1) ○○○の×××について
 - (i) △△の分析
 - (ii) □□の分析
- (2) ☆☆☆と◇◇◇の比較
 - (i)

第4章 考察

- (1) ○○の△△
- (2) 今後の課題

引用文献

レポート・論文の作法

- ◆ 構成や表現、文体には、だいたい分野（流派？）ごとの作法がある → これはそれぞれの分野で慣れるしかない
- ◆ 懇願、お世辞、言い訳を盛り込むのは不作法
- ◆ ただの感想文も不作法
- ◆ 最大の不作法は「盗用」

盗用・剽窃・コピー

- ◆ 絶対ダメです
- ◆ 不正行為は、当該科目の「不可」にとどまらず、すべての履修科目が無効となり、停学、卒業延期などの処分が科されます
- ◆ しかし、引用なくしてレポートはありません

引用の作法

- ◆ 引用されるのは、公表された著作物であること
- ◆ 引用部分と自分の著作部分が、はっきりと区別されていること
- ◆ 自分の著作物が主で、引用された著作物が従の関係にあること
- ◆ 引用する正当な目的がある、あるいは、引用の必要性・必然性があること
- ◆ 出典・出所がきちんとわかるよう明示されていること
- ◆ 著作者の意思に反する改変をしないこと

レポートのTips

構想編

- ◆ いきなり文章を書き始めない
 - 「執筆構想メモ」から始める
研究ノートの重要性
- ◆ タイトルや見出しを疑問文（の組み合わせ）
にしてみる
 - 疑問文とかみ合う文章が書けているか
常に意識する
- ◆ あれもこれも詰め込まない
 - 主張したいこと、主張できることは
せいぜいひとつ、ふたつ

資料収集編

- ◆ ネットはフル活用せよ
 - CiNii、J-stage、電子ジャーナル、行政情報（中央官庁、都道府県、市町村等）、Wikipediaも
- ◆ その上で、図書館、資料館、本屋もフル活用する
- ◆ 資料代はケチらない
- ◆ 「奥付」は必ず記録する
 - 忘れがちだけど、後でとても困ります

執筆編

- ◆ 表現に技巧はこらさなくてよい
- ◆ 自分がわからない、説明できない言葉は使わない
- ◆ 同じ意味の言葉は、同じ言葉で書く
- ◆ 図表を有効活用する

執筆編

- ◆ 「事実」と「自分の考え」は明確にわかる
- ◆ 固有名詞、専門用語は正しく使う
- ◆ ムダは削る ← 他人に削ってもらおう
- ◆ できれば、少し寝かす

事前・日常編

- ◆ 基礎知識の引き出しを持っておく
→授業には必ずヒントがある
- ◆ 短い論文をたくさん読む
→CiNiiやJ-stage、先生の持っている学術誌
- ◆ 論文を分解してみる
→他人の論文から、見出しと各段落の
箇条書きを抜き出す
- ◆ 文体、構成、表現をまねて、自分で手を動か
して書いてみる
→論文の表現作法が身につきます

レポート？の実例

最近書いた原稿の事例

- ◆ お題：地域の魅力を発見し、その資源化を探求する人材養成について
- ◆ 字数約5000字（約5ページ）
- ◆ 締め切り 2ヶ月後

構想

- (読者層を考えます)
- ◆ そうだ、「キュレーションコース」のことを書こう
- ◆ お題を疑問文に分解する
 - キュレーションって何だ？
 - キュレーションが扱う地域の「資源」とは？
 - 実例はあるのか？
 - どうやって養成する？

資料集め

- ◆ キュレーションって何だ？ → 専門の先生に適切な本を教えてください
- ◆ キュレーションが扱う「資源」とは？
→ 以前読んだ本に「資源論」のことが書いてあったなあ

資料を元に、メモ、図を作る

- ◆ キュレーションって何だ？ → 文献から定義に関する部分を抜き出す
- ◆ 「資源」とは？ → 書かれている資源の定義を元に、自分なりに理解した図にする

もう一回資料集め

- ◆ 実例はあるのか？ → これまで見聞きしてきた経験をもとに、検索をフル動員 → 学術雑誌の記事や一般向けの雑誌がヒット
- ◆ どうやって養成する？ → ここは具体的な実例が少ないので、自分の考えを

骨格 [アウトライン] を作る

- ◆ 見出しをならべる
- ◆ 資料からとったメモを適切な場所に配置する
- ◆ メモや図を元に、書きたいことを箇条書きにする → 書けるところから書く
- ◆ 箇条書き単位で入れ替えて、話がつながるようにする
- ◆ ひとつひとつの箇条書きが「段落」になることを意識する

文章化する

- ◆ 箇条書きが十分にたまって、一通りつなげて「論」ができそうになったら
- ◆ いよいよ執筆
- ◆ 箇条書きをていねいな文章に直し、適切な接続語でつないでいく
- ◆ 誤字脱字をチェックし、少し寝かせて見直して、直すところがなくなったら提出

参考になる文献

- ◆ 戸田山和久「新版 論文の教室 レポートから卒論まで」NHK出版、2012年
- ◆ ウンベルト・エコ「論文作法」谷口勇訳、而立書房、1991年 . . . 人文、哲学系向き
- ◆ ハワード・S・ベッカー「ベッカー先生の論文教室」小川芳範訳、慶応義塾大学出版会、2012年 . . . 社会科学系向き

- ◆ 小林康夫・船曳建夫編 「知の技法」 東京大学出版会、1994年 . . . 思考構成の手本として
- ◆ 木下是雄 「理科系の作文技術」 中公新書、1981年 . . . 理系、実験科学向き
- ◆ 酒井聡樹 「これから論文を書く若者のために究極の大改訂版」 共立出版、2015年 . . . 理系向き、さらに学術論文に挑戦する人へ

- ◆ 池田真治「レポート・論文の書き方：入門（第2版）」富山大学学術情報リポジトリ、2013年 <http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/dspace/handle/10110/12294> . . . 今日
の講習会にあたって参考にしました